

タカラバイオ株式会社 2021年3月期第3四半期決算(補足資料)

1. 2021年3月期第3四半期決算について

【決算短信 10 ページ】

(売上高)

- ・ 連結売上高は、295億4,900万円、前期比49億9,000万円(20.3%)の増収となりました。研究用試薬と受託サービスが好調でした。
- ・ 研究用試薬は、226億1,500万円、前期比45億7,300万円(25.3%)の増収となりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、世界的に研究開発活動が低下したため、一般研究用試薬は減収となりました。一方、新型コロナウイルス検査関連製品の需要は強く、増収の原因となりました。なお、11月に体外診断用医薬品を発売しましたが、現時点では、研究用試薬のカテゴリーに売上を計上しています。
- ・ 理化学機器は、11億1,300万円、前期比1億6,100万円(16.9%)の増収となりました。新型コロナウイルス検査に使用されるPCR装置などの需要が強く、増収となりました。
- ・ 受託サービスは、55億7,500万円、前期比21億8,300万円(64.3%)の増収となりました。遺伝子解析・遺伝子検査受託、再生医療等製品受託ともに好調でした。ワクチン関連受託はこのカテゴリーに売上を計上しています。
- ・ 遺伝子医療の売上高は、2億4,300万円となりました。製薬企業との提携による対価料収入が減少し、前期比▲19億2,700万円(▲88.8%)の減収となりました。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は、212億5,100万円、前期比64億6,000万円(43.7%)の増益となりました。増収および売上構成の変化、生産稼働率向上などによる原価率改善によるものです。

(販売管理費・研究開発費)

- ・ 販売管理費は、124億6,000万円、前期比15億4,800万円(14.2%)と増加しました。主に研究開発費、人件費などが増加しました。
- ・ 研究開発費は、36億5,600万円、前期比8億4,300万円(30.0%)と増加しました。新規遺伝子治療プロジェクト、研究用試薬の新製品開発、CDMO新サービス開発などに積極的に投資しました。

(営業利益)

- ・ 営業利益は、87億9,100万円、前期比49億1,100万円(126.6%)の増益となりました。売上総利益の増益(前期比64億6,000万円)が販売管理費の増加(15億4,800万円)を大幅に上回りました。

2. 2021年3月期の通期業績予想について

【決算短信11ページ】

【業績予想の修正および配当予想の修正(増配)に関するお知らせ】

(売上高)

- ・ 連結売上高は、452億円、前期比106億3,400万円(30.8%)の増収を予想しています。
- ・ 研究用試薬は、340億1,400万円、前期比91億7,300万円(36.9%)の増収を予想しています。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、引き続き、研究開発活動の環境は厳しい状況ですが、一部地域では、回復の兆しもあり、一般の研究用試薬は前回予想を上回って推移する見込みです。また、体外診断用医薬品などの新型コロナウイルス検査関連製品の需要増が続き、売上を押し上げる見込みです。
- ・ 理化学機器は、18億4,400万円と予想しています。新型コロナウイルスの検査に使用されるPCR装置などの需要増により、前期比6億100万円(48.4%)の増収予想です。
- ・ 受託サービスは、90億8,700万円、前期比29億100万円(46.9%)の増収を予想しています。遺伝子解析・遺伝子検査受託、再生医療等製品受託ともに増収の予想です。
- ・ 遺伝子医療は、2億5,300万円、前期比▲20億4,200万円(▲89%)の減収予想です。製薬企業との提携による対価料収入が減少する予想です。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は、296億7,300万円、前期比85億6,700万円(40.6%)の増益予想です。増収および売上構成の変化、生産稼働率向上などによる原価率改善により増益となると予想しています。

(販売管理費・研究開発費)

- ・ 販売管理費は、176億7,300万円、前期比28億4,200万円(19.2%)の増加を予想しています。研究開発費、人件費を中心に増加する予想です。
- ・ 研究開発費は、52億8,800万円、前期比14億1,800万円(36.7%)の増加を予想しています。新規遺伝子治療プロジェクト、研究用試薬の新製品開発、CDMO 新サービス開発などへの投資を想定しています。

(営業利益)

- ・ 営業利益は、120億円、前期比57億2,500百万円(91.2%)の増益を予想しています。達成時は、過去最高益、12期連続増益となります。

(配当)

- ・ 期末配当を前回予想(11月10日)の1株あたり9.00円から14.00円に修正します。前期からは6円の増配、配当開始以来、9期連続増配の予想です。

3. 新型コロナウイルス検査用のPCR関連製品の販売や製造体制について

- ・ 国内では研究用試薬(保険適用品)に加え、11月より体外診断用医薬品の承認を得た新製品を発売しました。承認された製品を販売する事で、より幅広い医療機関・検査機関で利用していただけるようになりました。
- ・ 販売先としては、医療機関、衛生研究所・保健所のような公的検査所、民間検査センターなどです。
- ・ 海外では、検査薬会社、検査ラボ向けにPCR酵素などのバルク製品、OEM製品など、地域のニーズに合わせた製品を販売しています。
- ・ 新型コロナウイルス検査の関連製品の売上高は、通期で約120億円(上期40億円、下期80億円)に達すると予想しています。
- ・ 滋賀県草津市の本社事業所内に政府補助金(経産省令和2年度サプライチェーン対策のための国内投資促進事業)を活用し、PCR検査関連製品の製造設備の整備を進めています。現在、日本国内向けのPCR検査キットの供給能力は、月産500万反応(日本製造100万反応、中国製造400万反応)ですが、これにより、月産1,200万反応(日本製造800万反応、中国製造400万反応)に引き上げる体制を整備します。2021年夏ごろの稼働を目指しています。また、同事業所では体外診断用医薬品の品質マネジメントシステムの国際規格であるISO13485の認証を2021年1月8日に取得しており、今後、体外診断用医薬品の製造を本格化する予定です。

4. ワクチン関連の受託製造の状況について

- ・ ワクチン関連では複数のプロジェクトをCDMOとして受託しています。
- ・ 上記のうち公表されているのは、大阪大学、アンジェス株式会社らのグループが進める新型コロナウイルス感染症向けDNAワクチン関連受託です。臨床試験の状況は、開発を主導するアンジェス株式会社よりプレスリリースなどでアナウンスされておりますので、詳細はそちらをご確認下さい。現在、第2/3相臨床試験が進行中と聞いています。(アンジェス株式会社・2020年12月8日リリース)
- ・ 滋賀県草津市の本社事業所内に、政府補助金(厚労省ワクチン生産体制等緊急整備事業)を活用して、ワクチン製造に関連する設備を整備中です。2021年秋ごろの稼働を目指しています。

5. NY-ES0-1・siTCR®(開発コード:TBI-1301)の製造販売承認申請について

- ・ TBI-1301の滑膜肉腫を適応症とする国内製造販売承認について、2020年中に大塚製薬(株)から申請予定でしたが、現在まで、申請されておりません。
- ・ 今後のスケジュールは大塚製薬(株)から発表される予定です。

以上